

経営比較分析表（令和5年度決算）

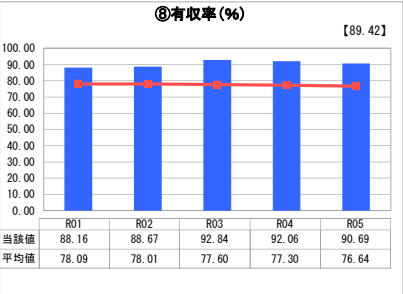
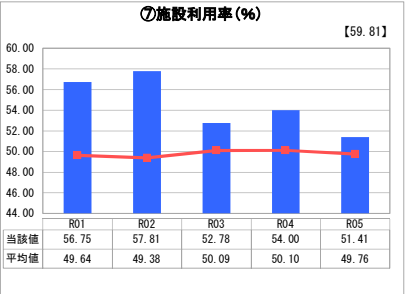
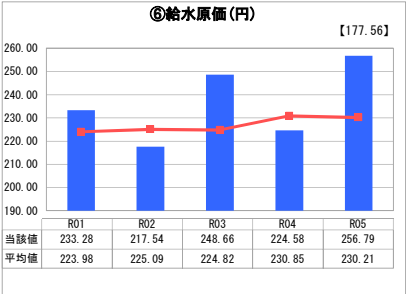
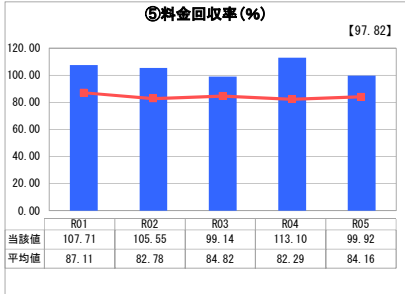
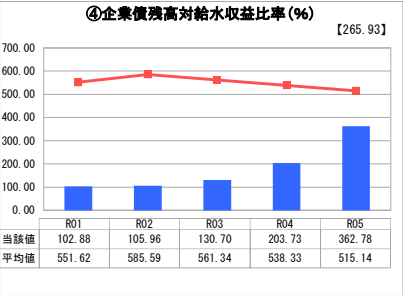
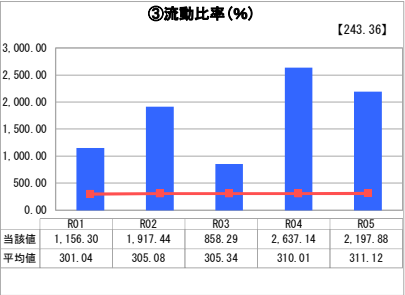
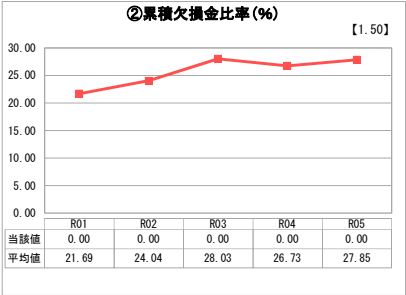
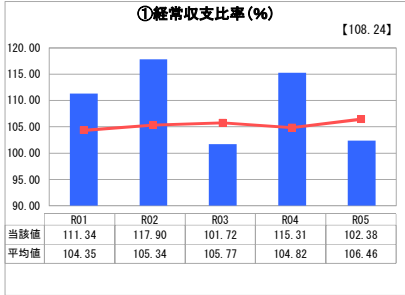
和歌山県 由良町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A8	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	76.19	99.90	3,976	

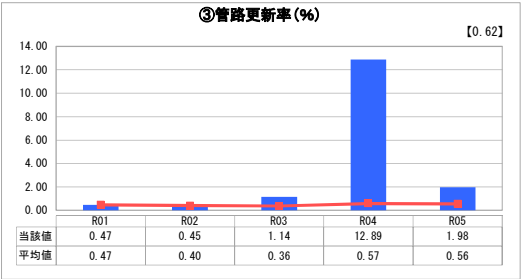
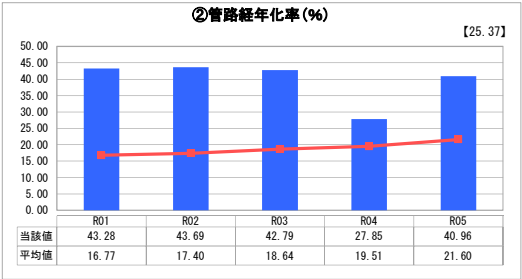
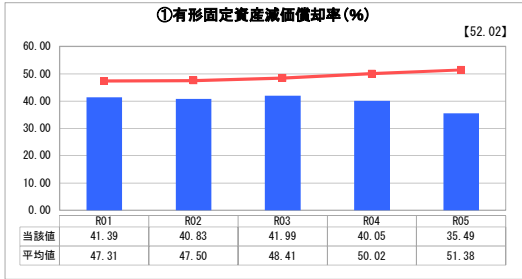
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
5,183	30.93	167.57
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
5,139	29.18	176.11

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率
経常費用を経常収益で賄っており健全であるが、昨年より低下しており平均を下回っている。
- ②累積欠損金比率
営業活動による累積した損失はない。
- ③流動比率
短期的な債務に対して支払う現金等がある。
- ④企業債残高対給水収益比率
給水収益に対する企業債現在高は増加したものの平均値よりも低く、更新等新たな投資にも対応できる。
- ⑤料金回収率
今年度指数悪化し、給水に係る費用が給水収益ではわずかに賸えていない。
- ⑥給水原価
増加要因は、経常費用が増加した事による。そのため、類似団体平均値よりも高い数値であった。
- ⑦施設利用率
施設利用率は、類似団体と比較して高い。また、1日最大配水量にも対応でき問題はない。
- ⑧有収率
配水量が給水収益となる割合が類似団体平均値を上回っており、施設管理に無駄がないと考えられる。

2. 老朽化の状況について

昭和40年代後半に建設した管路が耐用年数を超過し老朽化が進んでいるが、更新投資も随時行い、適正に修繕を行うなど管路の長寿命化を図っていく。

全体総括

人口減少に伴う給水収益の減、施設等の修繕費用増加などを見込み、利益剰余金を計画的に利益積立金へ積立て、将来にわたり経営の安定化を図っていく。